

就任にあたって

副所長・宇宙科学プログラムディレクタ

澤井秀次郎

ISAS にとって、新たな挑戦を続けることは重要です。もちろん、JAXA 全体にとっても挑戦する姿勢は大切ですが、その中で宇宙科学分野を担っている ISAS は挑戦することが特に強く求められている存在なのだろうと思います。新たな輸送系技術を獲得する、新しい衛星システムアーキテクチャを実現する、といった技術的な挑戦が、新たな観測、新たな探査への挑戦に繋がります。その意味で、ISAS は挑戦することで新たな宇宙科学成果を創出して人類の知の増大に貢献する組織と言えます。

しかしながら、残念ながら挑戦に失敗はつきものです。逆に言えば、絶対に失敗しないものは挑戦とは言えません。この対応として、ISAS でもプロジェクトの規模を複数設定することとしているのはご存じの通りです。規模が大きいプロジェクトは失敗したときの影響が大きいためにどうしても挑戦性を抑制せざるを得ず、また、万一の場合でも全てを失わないように様々な手を打っていくこととなります。では、逆に、より先端的な挑戦をするにはほとんど小規模にしていけばよいか、と言えば、そう単純でないことは自明です。全くリソースがない状態で挑戦をする、というのは現実的ではありません。

これらのことを考慮しつつ、今後、所内外の皆さんや宇宙科学コミュニティの声を聞きながら対応していきたいと考えています。現在、私が考えているイメージは、大気球実験や観測ロケット実験と類同の規模で衛星開発や飛翔体フライト試験を実施する枠組の創出です。この規模で高頻度に、「あわよくば世界のとっぺんを獲る」野心的な取り組みができないか、と考えています。ここで重要なのは、「あわよくば」です。確実に世界的成果を挙げることを標榜する場合には、どうしても一定以上の規模が必要になるでしょう。そのため、この枠組で行く場合にはある程度の失敗リスクを許容することが必要となります。かと言って、「安かろう、悪かろう」でいい加減な開発をして低質の失敗をするのでは意味がありません。あわよくば世界的な成果（もしくは、世界的な成果を挙げるであろう将来計画を強力にサポートする成果）を得るとして、ダメだったとしても、実り多い失敗に結びついて欲しいものです。このような取り組みで経験を積めば、より大型の本格的な計画の成功確率向上も期待できます。これによって、ISAS のフラグシップである戦略的中型計画が、より安全により先端的な挑戦ができるようになるのが理想です。

所長のリーダーシップのもと、宇宙科学コミュニティや所員の皆さんを含めた関係者の意見を聞きながら、宇宙科学プログラムはどうあるべきか模索し、より良い姿の実現に挑戦していきたいと考えています。